

「命の授業」・「赤ちゃんふれあい」体験実施

実施日：10月6日(木)・26日(水)・27日(木)・28日(金)



「赤ちゃん」は、“伸びゆく日本”の希望の光！！

学校に赤ちゃんが戻ってきました。「赤ちゃんふれあい」体験の復活です。直近の2年間は、コロナ禍ということで、赤ちゃん人形と妊婦ジャケットを使っての疑似体験でした。しかし、やはり本物の赤ちゃんとふれあう体験は、絶対に必要ということで今年度復活しました。

「生命尊重の精神を養い、人権感覚の育成を育む」と「町の子供は町で育てる、子育てに優しい滑川町から」というコンセプトの下、「親の学習」に位置付けての実施です。「命の授業」と「ふれあい体験」の二本立てとし、「命の授業」の指導をNPO法人や先進校の教員から、「ふれあい」体験の指導を埼玉県家庭教育アドバイザーや民生・主任児童委員、学童指導員から、また立正大学の協力も得ながらの実施でした。

すべての生徒が少しでも赤ちゃんに触れる体験ができるようクラスごとの体験にしました。ちょっぴり不安そうな赤ちゃんがお母さんに抱っこされてやってきましたが、生徒とふれあう場面では、笑顔をふりまく赤ちゃん、泣き叫ぶ赤ちゃん、お母さんにべったりの赤ちゃんなど様々でした。そんな赤ちゃんに戸惑いながらも、生徒はとても楽しく接することができました。

「ハイハイができるようになったり、いつのまにかつかまり立ちをしていたり、1週間前にはできなかったことがどんどんできるようになったり、それがうれしくてたまらない」、若いお母さんの言葉を車座に囲んだ生徒たちが一生懸命聞いていました。質問に答えるお母さんの顔は輝き、堂々としていました。恐る恐る赤ちゃんに手を伸ばそうとする生徒に我が子を思いきりよく、ぽんと抱かせる場面もあるなど、ほのぼのとした光景がたくさんみられました。

将来の日本を背負っていく赤ちゃん、その赤ちゃんの元気な声があちこちで響き渡る、とても活気に満ち溢れた体験活動でした。



御協力いただいた方々

大谷あすみ・瑛太さん、青柳美桜・李都さん、川尻佳歩・和音・悠さん、川尻真希さん
神田敦子・宗佑さん、新井あずさ・えなさん、太田雄大・結土さん、松元悠子・葵さん、
松本真由・英里さん、野口さとみさん、岩下なつみ・大貴さん、
八木原夏実・怜花さん、八木原美保・佑悟さん

「ありがとうございました」







